

# 2020年度 住吉小学校 人権教育、同和教育の取組



**人権教育、同和教育の充実⇒人権感覚と実践的態度の育成**  
人権教育、同和教育の授業「じんけん」 人権教育、同和教育学習会 仲間づくり活動 職員研修の充実

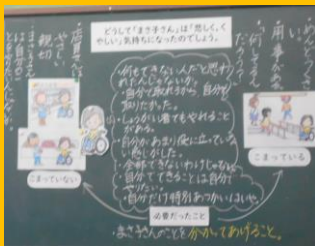
## 人権教育、同和教育の授業「じんけん」

研究主題「自分の差別意識を見つめ、差別に立ち向かうとする思いを強める子の育成」に向けて、授業実践を通して子ども教師も学んでいます。差別事象をいかに自分のこととして捉えることができるか、また、自分の生き方を見つめ直すことにつながるかについて、研究を進めています。

### 2 学年授業

資料「ほくうれしかったよ」

休み時間、ぼつんと一人でいて時々泣いていることがある子の思いについて考えました。どのようにかわればいいのか、どんな言葉をかけるのか、自分目線ではなくその子目線で考え、支えることが大切だと話し合いました。



### 4 学年授業

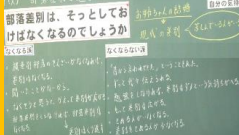
資料「私のことを分かって」

障がいがある人の思いを確かめないままに、一方的に手伝った店員の行動について考える中で、一見親切な行動に見えるが、その裏には「障がいがある人は何もできない人だから助けてあげなければならない」という差別意識があることに気付く姿が見られました。

### 6 学年授業

資料「部落差別を勉強して～ある子の作文～」

「よししたら、そっとしておけばいいからいいかな。」  
なぜかと言うと、生まれて12年、部落差別に出会ったことがない、学校で断うで見たことも聞いたこともなかったからです。私のように知らない人が増えていけば、いつかなくなるのではないかと思ったのです。



新発田市意識調査(2017)でも課題となっている「寝た子を起こす意識」について考えました。授業では「部落差別はそっとしておけばなくなる/なくなるしない」の立場に分かれて話し合いました。「今も部落差別はあるから、差別は続いていく」「勉強しなければ、差別はだめという気持ちが減ってしまう」「そっとしている人がいるから今もなくなるしないのだ」「差別意識は自分の心から生まれるから、知って自分のこととして考えることが大切だ」など、これまでの学習で学んだことを生かして話し合う姿が見られました。

- ★住吉小学校では次の3点について自分を見つめることを大切にしています。その上で、これからの生き方を考えさせています。
- ①自分が差別をする主体者に成り得ること
- ②自分が人権を侵害される主体者に成り得ること
- ③自分が差別をなくす主体者であること

## 人権教育、同和教育学習会

11月20日(金)に人権教育、同和教育について子どもも大人もともに学び合う「人権教育、同和教育学習会」を開催しました。第1部に授業公開、第2部に講演会を行いました。講演会には6年生の子どもたちも参加し、講師の方と部落問題について話し合いました。

### 第1部授業公開

授業公開ではいじめ問題や高齢者差別、男女差別、新潟水俣病の方への差別、部落差別について、真剣に考えました。



### 第2部講演会

全国各地で人権に関する講演をしている方をお迎えしました。ご自身の経験から、学ぶことの大切さ、仲間とつながることの大切さについて、熱いメッセージをいただきました。

**講演会**  
講演会には、全国各地で人権に関する講演をしている方をお迎えしました。ご自身の経験から、学ぶことの大切さ、仲間とつながることの大切さについて、熱いメッセージをいただきました。

## 職員研修

授業研究の他に、現地研修や当事者の方をお招きした研修などを行っています。また、人権意識の向上や授業立案の参考を目的とした同和教育部だよりを発行しています。

**同和教育部だより**  
これからの学習態度に学び合おう！  
新しい授業実践！  
職員研修の様子

## にこにこタイム

毎週火曜日に各学級で遊ぶ時間を設定しています。計画から振り返りまでのほとんどの運営を子どもたちが行います。にこにこタイムを通して、学級の絆が深まっています。



## スマイルタイム

月に一度、40グループの縦割り班で異学年交流活動を行っています。班でしたい遊びを話し合って活動します。毎回、上級生がリードしながら、学年を問わず、楽しく、笑顔で活動しています。



## いじめ見逃しゼロスクール集会

差別やいじめをなくしていくために各学級で実態に合わせたスローガンをつくりました。自分が意識すること、みんなで考えて実行していくことを学級みんなで約束しました。

今年度はコロナ禍のため、放送での集会となりましたが、玄関前には各学級の思いが並びます。

